

一般社団法人新潟県臨床検査技師会  
平成29年度事業計画

会長

渡邊 博昭

平成29年度は役員改選年度であるが、新たな体制の下、基本的には事業をそのまま引き継ぎ、とどこおりなく会務を遂行したい。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

総務部

- ① 一般社団法人移行に伴っての問題点を検証する。
- ② 新しい規定および手順書の検証をする。

学術部

- ① 第91回新潟県臨床検査学会の企画・運営を行う。
- ② 認知症領域に関わる講習会の開催を検討する。
- ③ 検査研究部門活動の助成金申請を20研修会申請する。

広報部

- ① ホームページのさらなる充実を図る。

## 1. 会務の執行体制

平成29年度は役員改選期にあたるため、円滑な業務運営を進めるうえで、各種規定・マニュアル等の周知に努めたい。

また、活動の要である事務局機能は、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

## 2. 諸会議

### 1) 理事会・常任理事会

会議の招集、運営が非常に厳しい状況ではあるが、連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として年12回（理事会・常任理事会）を開催したい。

### 2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

### 3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものであり、会員登録者を増やしていきたい。

## 3. 組織対策

### 1) 臨床検査セミナー

毎年、第1回通常総会と同時開催している臨床検査セミナーは、技師会事業として定着している。内容も市民公開講座による臨床検査技師のアピールや、臨床検査技師の卒後教育等を企画し自己研鑽の場として今後も積極的に開催していきたい。

### 2) 各支部との連携

各支部持ち回りの秋の学会開催については、会場確保および参加人数等の問題もあり、今年度から新潟市で開催することでの充実を図り、学術部と支部の連携のもとに多くの会員参加を募り、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

### 3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。

また、臨床検査技師の地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

## 4. 公益活動（地域保健医療活動）

一般社団法人として、県民の保健・医療・公衆衛生の更なる向上を目指すべく、臨床検査技師の社会貢献に取り組み、日臨技の事業および学会時の公開講演や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画して行く。

## 5. 求人情報の提供

求人情報の提供として日臨技への情報登録に留め、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

## 6. 表彰関係

### 1) 篠川至賞

平成29年度で第35回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力

いただき、各支部からの積極的な推薦のうえ表彰する。

## 2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

## 3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求めべく、分野に関わらず最多得点者の上位3名を推薦する。

## 4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

## 学術部

副会長 桑原 喜久男

第91回新潟県臨床検査学会を12月17日、新潟テルサにて開催する。多くの会員から一般演発表をお願いしたい。検査研究部門は新潟県臨床検査学会において教育セミナー等の企画、運営を担当いただく。精度管理は新臨技HPを活用しサーベイ結果の閲覧可能となった。より事務手続き等の簡素化を図りたい。日臨技の生涯教育推進事業は20研修会の申請を目指して活動を行う。日臨技より平成29年度より勧められる認知症対応向上講習会を新潟県で開催できるように準備を進める。

### 1. 学会

桑原 喜久男

第91回新潟県臨床検査学会を12月17日（日）、新潟テルサを会場に開催する。多くの会員より一般演題の発表をお願いしたい。県学会を経験し、北日本支部学会、日本医学検査学会へとその発表の場を広げていけるように努めていただきたい。日臨技が進める検査説明・相談事業、病棟業務事業、認知症関連事業と多くの事業が進められているが、会員へこれら事業の目的、向かう方向等を日臨技執行理事から伺える機会を設け、将来の臨床検査技師像を考える機会とした。

### 2. 検査研究部門

池亀 央嗣

検査研究部門が行う各種研修会は、技師会において最も重要な活動のひとつである。医療制度や各分野における検査技術は大きく変化し、新たな知識や技術を臨床検査技師が習得していくことは極めて重要である。これらの知識や技術を学ぶ各種研修会の果たす役割は大きい。

検査研究部門は、前年度に再編され、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門の9部門3分野となった。今年度は、新体制2期目となる。

各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とし、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度の参加費で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は、会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、若手技師や認定技師等の資格取得教育、最新情報などを考慮して、様々な状況にある会員に有用な情報をバランスよく発信できるような体制を整備する。

技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や相互補完研修会を企画する。各研究部門と協力し、系統的な人材育成や生涯教育を行い、魅力ある学術活動を目指したい。研修会の形式は、講演に加えて、実習形式による研修会を推進する。また、日臨技や支部での研修会を伝達する形式での研修会も奨励する。

研究部門や支部との連絡を密に行い、会員が他分野など多くの研修会に参加し、幅広い知識や技術を習得で

きるよう、研修会開催日の重複を避け、開催地の地域格差を軽減する。

若手技師に対する学会発表や論文執筆などの技術的サポート体制を整備し、県学会や支部学会、全国学会での学会発表、医学検査をはじめとする学術雑誌への論文投稿を推進したい。前年度までの2期4年間は、第63回日本医学検査学会、平成28年度日臨技北日本支部医学検査学会（第5回）と大きな学会が続いた。これらの経験を生かして、活発な学術活動を展開していきたい。

### 3. 精度管理事業

坂西 清

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、会員の技術向上に重要な事業であるという位置づけで本年度も積極的に協力していく。

今年は、近年、課題となっている HbA1c の試料を全血で実施するための検討及び実施をしていきたい。また、昨年、行ったサーベイで明らかになった集計方法などの問題点を日臨技と連携を取りながら解決していきたい。

本年度も臨床化学、微生物、血球計算、一般フォトサーベイをさらに充実させ実施を予定している。平成19年度より日臨技データ標準化事業がスタートし、それを踏まえ実施項目を増やし、標準物質が入手可能な項目については随時評価を行ってきたが、本年度もそれらに努めたい。

日臨技の「臨床検査室精度保証認証制度」についても今年度は多くの施設が申請を行なっていただくように啓発を進めていきたい。

### 4. 生涯教育

近藤 善仁

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。本年度は役員交代の年であり、新役員の方は JAMTIS の運用に戸惑うことも多いので、県担当理事との連携を密にし、円滑な事業の推進に努めていく。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援していく。

昨年度同様、「生涯教育推進研修会助成金」の申請を行い、助成金の支援を促していく。

### 広報部

副会長 坂西 清

今年度も新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページの3本柱での運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また、今年度は、より会員に見てもらえるようなホームページの運用を検討し、魅力あるホームページの運用を検討していきたい。

県理事、各支部理事および会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させ、会誌やホームページの充実に熱意を持って取り組んでいきたい。

### 1) 新臨技会誌

齋藤 功英

会誌発行は303号から306号までの年4回季刊発行を予定する。〔講義・研究〕は多分野に渡り基礎的内容から技術革新に取り組んだ内容を掲載していきたい。〔研修会報告〕は参加会員の協力により引き続き掲載し、情報提供や新人会員の研鑽の頁としたい。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～〕などの掲載で会員相互の親睦をはかり、誰もが参加できる頁としたい。〔公益活動報告〕を掲載することにより、多くの会員に活動を知っていただき、ボランティア参加への啓発ツールとして掲載していきたい。

## 2) 新臨技ニュース

池上 喜久夫

理事会議事録, 組織活動, 研修会案内, 求人情報など速報性・実用性のある内容を掲載していきたい。また, 読みやすいレイアウトになるように心がけるとともに, 今後も広く会員に読まれるよう工夫していきたい。発行は月1回とし, 理事会終了後, 速やかに発行できるよう努めたい。

## 3) 新臨技ホームページ

近藤 善仁

新臨技ホームページは, 案内・各支部活動・研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧できることより, 世代を問わず多くの会員から好評を得ている。今後も有意義な情報提供ができるよう尽力していく。

当技師会は, 大規模災害時に備え災害時緊急連絡システム(メーリングリスト)を構築しているが, 登録者数が伸び悩んでおり会員の10%にも満たない現状である。引き続き一人でも多くの会員の登録をお願いしたい。(詳細は県技師会ホームページ参照)